

法政大学江戸東京研究センター主催シンポジウム 島からみる江戸東京 — 交流・広がり・領域 —



「伊豆七島全図」天明年間

「日時」 二〇二三年十二月二十三日(土)十三時〜十七時
「会場」 法政大学市ヶ谷田町校舎マルチメディアホール (オンライン配信あり)

「趣旨」
このシンポジウムでは、江戸東京が「島を抱えた都市」であるという点に注目し、都市と島の関係性を捉えなおすための新たな枠組みを探ってみたい。
具体的には江戸東京の伊豆諸島に注目する。伊豆諸島は東京湾の南方に連なる群島で、どの時代においても江戸東京の圏域のなかに位置づいてきた、いわば「都市近郊型の島」である。常に都市の影響下にありながら、それは異なる独自の環境や空間が強い個性を放ち、それが現在に至るまで多くの人々を島へと惹きつけている。
地図上では海上の小さな点のように見える伊豆諸島の島々。しかし、その背景には文化的な「交流」や「広がり」、閉じながらも適度に開かれた、都市と島を結ぶ「領域」が形成されてきたのではないだろうか。この相補的な「つながり」とはどのようなものかそして、そこから私たちは何を学ぶことができるのか。こうした点に光を当て、島から見た江戸東京の新たな可能性に迫りたい。

「プログラム」
基調講演 十三時十分〜十三時五十分

— 江戸時代までの江戸東京の島々 —
田中優子 (法政大学名誉教授)

報告第一部・島に関する研究発表 十三時五十分〜十五時四十分

— 可視化される江戸の島、東京の海・地図にみる伊豆諸島 —
米家志乃布 (法政大学教授)

— 再発見される東京の島・波浮港の近代化と集落の拡張 —
高道昌志 (東京都立大学助教)

— 新島のコーガ石産業と集落景観 —
金谷匠高 (世田谷区教育委員会)

— 神津島と本州のネットワーク／柳田國男『嶋』と島々の変容 —
前畑明美 (法政大学沖縄文化研究所国内研究員)

— 宮沢賢治と伊豆大島 —
岡村民夫 (法政大学教授)

報告第二部・現地・島からの発信 十五時四十分〜十六時

— 八丈島の酪農再生 —
歌川真哉 (八丈島乳業社長)

— 「東京の島」への旅の魅力 —
倉本英治 (法政大学研究開発センター)

デイスカッション 十六時一〇分〜十七時〇〇分

申込・参加無料
・ 会場参加は事前申し込み不要
・ オンラインは下記より申し込み
<https://forms.gle/RNda55SEN1zmqxw8>

